資料２－１

平成 24 年 9 月 13 日
検討会議（第 2 回）資料

報告者：本多敏幸

＜発表内容＞
１．公立中学校における年間指導評価計画（本多作成のもの）
２．現任校における Can-Do リストの取り組み

１．年間指導評価計画（到達目標を明示した例）

３年間の到達目標の設定
↓
各学年の到達目標の設定
↓
各学期の到達目標の設定
↓
各単元の計画・各活動の計画
↓
授業・評価

年間指導評価計画を立てるために
①授業時数と教科書にかけられる時間
→　一般的に多くの時間を活動にかけられない
②教科書だけで計画を立てるとゴールが見えない
→　単元の目標のみとなる
到達目標を立てることにより
①活動を計画に組み入れる必要を感じる
→　計画表に活動の欄を作成
②中・長期の目標から教科書から離れることも
→　帯活動などで活動を確保

２．Kudan Can-Do リスト
（１）作成の目的
ア　生徒に本校の英語の授業を通してできるようになることを示す
イ　生徒が自己の目標を設けられるようにする
ウ　保護者に本校の英語の指導について理解してもらう
エ　教員が指導目標、指導内容を共有する（バラバラな指導にならないようにする）
（２）経緯
平成１８年度より学校として何度か取り組むが挫折
理由：作り方がわからない、到達目標の羅列になってしまう
平成２２年度（Ver. 5）福岡県立香住丘高校のリストを参考にする
平成２３年度（Ver. 6）一応の完成　→　全校生徒に配付
（３）Kudan Can-Do リストの特徴
①技能ごとに４つの観点
観点１が実生活に関わること、観点２が本校の行事や取り組みに関すること
観点３、観点４は技能
②本校独自のものを入れる　→　入れないとどこの Can-Do リストか分からない
③やや高めの到達目標を設定（達成度調査を参考にする）
④検定や校内で行う外部テストに関わることも欄外に示す

（４）達成度調査（評価）の方法

＜平成２２年度＞

自学年のみの目標の達成度調査を行う（資料参照）

目的　難易度の修正をするための調査

結果　5 段階調査で 3.7 以上が 18 項目、3.0 以下が 15 項目

考察　授業で指導していないことは低い、タスクが難しすぎるものもある

→　Kudan Can-Do リスト（Ver. 6）で修正

＜平成２３年度＞

Kudan Can-Do リストを見ながら、自己評価を行う（４段階調査）

目的　「作成の目的」のアとイのため

結果　リーディングの各項目において３と４を付けた生徒の率（□は 70%以上）

G	R	観　点	１年生	２年生	３年生	４年生	５年生
1	1	実生活	98.6	97.4	99.3	98.5	99.3
	2	Kudan Method	98.7	98.7	97.3	92.0	98.6
	3	概略理解	100.0	98.0	99.3	94.9	99.3
	4	音読	98.7	96.0	98.0	97.1	98.6
2	1	実生活	87.2	98.7	98.6	96.4	100.0
	2	Kudan Method	60.3	91.3	95.9	91.2	99.3
	3	概略理解	62.8	86.1	97.9	90.5	99.3
	4	音読	55.1	93.4	97.3	94.9	97.8
3	1	実生活	39.5	63.1	91.2	83.9	96.4
	2	Kudan Method	52.1	78.8	97.3	90.5	98.6
	3	概略理解	25.3	60.3	95.9	74.5	97.1
	4	音読	28.1	50.3	90.5	80.3	98.6
4	1	実生活	30.4	53.3	89.7	79.4	97.1
	2	Kudan Method	15.8	24.5	61.0	52.2	88.4
	3	概略理解	14.2	15.2	50.3	43.4	92.0
	4	音読	14.3	15.2	51.7	68.4	93.4
5	1	実生活	6.8	9.9	20.8	26.7	81.9
	2	Kudan Method	6.8	5.3	25.7	26.7	71.7
	3	概略理解	2.7	4.6	9.1	19.3	79.7
	4	音読	3.4	6.6	24.5	31.9	81.9
6	1	実生活	2.1	2.6	6.3	9.7	48.9
	2	Kudan Method	2.8	4.0	4.9	9.0	34.3
	3	概略理解	2.1	2.6	2.1	9.7	46.7
	4	音読	2.1	3.3	10.6	11.9	58.4

（５）目標を達成するための研修

年間 10 回程度の英語科の研修会を行い、指導方法や教材について共有する

平成 23 年度の研修会で共通認識できたこと（リーディングに関して）

＜英語科として共通に行うこと・行わないこと＞

① 共通指導案の作成の継続

担当教員によって指導方法が異ならないようにするため、共通指導案を作成し、共有フォルダに保存する。

② 基本的な指導方針

検定教科書を使った指導を大切にする。文法だけ、ある特定の技能の活動だけのような偏った指導にならないようにする。

③ 教科書等の指導方法（活動）

教科書本文を扱ったあとの音読とそのあとのプロダクション活動（スキット、リプロダクション、スピーチ、ディスカッションなど）を行う。また、初見でまとまりのある文章を黙読する活動を重視する。特に後期課程では、未習の文章を初見で読ませる活動を取り入れる。速読と精読についてはメリハリのある指導を行う。伝統的な文法訳読式は行わず、指導方法を英語科全員で工夫する。具体的なことから抽象的な文章へ、意識的に取り組ませる。（自然科学、文化、社会などさまざまな分野の文章に触れる必要性がある。）

④ 予習と復習について

前期課程では復習に重点をおく。後期課程でも復習を重視する。予習では、日本語訳を毎回行わせるなどの課題は避ける。特に未習のテキストを日本語訳にさせる課題を継続して課さない。課題の出し方については英語科教員全員で考え、工夫していく。

⑤ 語彙指導

辞書については１年次に全員に購入させる。同じ辞書を購入させるか教員が推薦した複数の辞書から選ばせるかは学年の授業担当者の裁量とする。学習英和辞典の易しいものを購入させる。また、１年次に Picture Dictionary を購入させ、ＥＡなどの時間で３年間をかけて指導する。特に身の回りの語彙の指導を心がける。単語帳は４年次までに 3,000 語レベル、５年次までに 4,500 語レベルを学習することを目標にする。電子辞書は原則として後期課程より授業で使用してもよいこととする。

⑥ 多読指導

１年次では３回以上、２・３年次では５回以上、国際理解教室やＬＬ教室にある本を読ませる機会をつくる。後期課程では、２～３名を成績順にグルーピングし、サイドリーダーを年間５冊以上読ませる機会をつくる。

⑦ 英字新聞

４年次より週刊 Student Times（ジャパンタイムズ社）などの英字新聞の記事を活用した指導を行う。

⑧ フォニックス指導

１年次で、文字と音を一致させるフォニックス指導を行う。フォニックスのルールについては１年間の指導計画の中で少しずつ教えていく。

⑨ ブリッジ指導

３年次で検定教科書の学習を終えたあとに、長文を一気に読ませる指導を入れる。（高校入試問題の速読など）

⑩　English Shower

English Showerは、前期課程はクラス単位、後期課程（６年次前期まで）はクラス２分割を原則とする。後期課程は、月～金のうち、各クラス１日をEnglish Showerに充てるなど工夫して行う。

⑪　文法参考書

前期課程では、「マーフィーのケンブリッジ英文法」などの練習問題がついた文法書を用い、指導する。家庭学習の課題にするなど、その使い方は工夫する。３年次の後半または４年次のはじめに文法書（「フォレスト（桐原書店）」や「シード（文英堂）」など）を生徒に持たせ、文法学習の拠り所として活用するように指導する。

（６）今後の課題

①　「英語科として共通に行うべきこと、行わないこと」を英語科の全教員が意識をして指導する。

本多：Can-Doリストを作った年度は意識が高いが、継続していくことが課題である。4月当初に全員で確認していく。

②　本校英語科の授業の質を向上させ、効果的な指導を行うために、さまざまな言語活動や良質な教材を用いる努力を行う。特に「読むこと」の力を生徒につけるために、多読用図書や英字新聞などの活用方法を開発する。

本多：作成した教材の共有、研修の充実がなければ不可能。忙しすぎて、校内で研修する時間が足りない！また、一般的に学校外の研修に行きづらい状況がある。

③　生徒の自己評価のうち、いくつかの項目において教員が想定したものより低くなっている。授業を通して生徒に自信をもたせる指導や情意面での働きかけを行う。

本多：バラバラな教員の指導力をカバーできる学校（英語科）としての意識、具体的方法の開発が必要である。

④　Kudan Can-Doリストの達成度調査をより正確に行う。

本多：個々の項目のタスク作りや評価をしっかり行う必要あり。しかし、評価に関しては授業でこれ以上は時間が取れないので、自己評価との組み合わせを考えたい。自己評価をさせるだけでも、「作成の目的」アとイの効果はある。

いろいろとがんばってやりたい
でも、時間が足りない、やり方がわからない
到達目標を１つでも作成すれば、それだけで授業を大いに改善することにつながる
理想はあるが、「あれも」「これも」となってしまってはすべての学校・教員には無理
日本の英語教育が一歩よくなるように支援する気持ちで取り組みたい

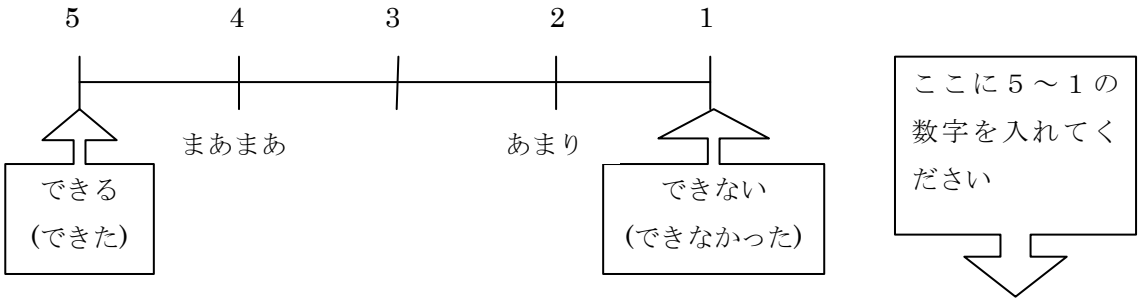
資料（平成２２年度末に行った達成度調査）

英語の達成度に関する調査

英語の達成度に関する調査を実施します。この調査は九段中等教育学校の英語の指導を向上させるために行うもので、あなたが記入したことは評価や成績などとは関係ありません。自分を振り返り、最も適するものを選んでください。

質問０　あなたの番号、氏名を書いてください。
（記入したことの中で有用なものがあれば、後ほどさらに意見を聞く場合があります）
２年［　　］組［　　］番 氏名［　　］

この調査はあなたが各項目についてどのくらいできると思うか（思ったか）を尋ねるものです。５点満点のうち、次の基準であなた自身の点数を記入してください。ただし、１～５の【実行調査】と書かれているものは実際に試してみてその結果について回答する形式のものです。



番号	質問項目	番号	回答
1	【実行調査】英文を聞いて概略（だいたいの内容）を理解できる。	1	
2	【実行調査】別紙の用紙を配付します。これを制限時間以内に黙読し、概略を理解することができたか、回答してください。	2	
3	【実行調査】別紙の用紙を配付します。内容をじっくりと確認したあと、イントネーション、強勢、音の変化などを意識した音読ができたか、回答してください。	3	
4	【実行調査】これから質問することに３文以上で適切に答えることができたかを回答してください。	4	
5	【実行調査】身近な話題についていくつかの会話技術を使いながら二人で協力して２分以上継続することができる。	5	
このあとは自分が行ったと仮定して、できるかどうかを判断してください。			
6	英語の先生が話す英語を聞いて内容をほぼ理解できる。	6	
7	簡単な副読本を楽しみながら読むことができる。	7	

8	スピーチや何かの説明を聞いて内容を概ね理解することができる。	8	
9	身近な話題についての会話を行い、相手に適切な質問をすることができる。	9	
１０	英語合宿や授業で、外国人の先生の説明や指示の英語を聞いて、ほぼ理解できる。	１０	
１１	「英語を学ぶこと」など、何かを説明する 10 文程度の文章を理由を含めて相手に伝わるように書くことができる。	１１	
１２	自分の持っている情報を他の人に分かりやすく説明することができる。（レポーティング）	１２	
１３	12 文(80 語)程度のスピーチ文を聞き手に分かりやすく書くことができる。	１３	
１４	身近な話題で 40 秒程度のスピーチを準備すればすることができる。	１４	
１５	English Shower や英語合宿などで、相手に聞かれたことに適切に答えることができる。	１５	
１６	身近な話題や関心のある文章を読んで概略が理解できる。	１６	
１７	教科書の対話文の続きを創作して、４文程度加えて書くことができる。	１７	
１８	クリスマスカードや招待状などを書くことができる。	１８	
１９	長期休業中に自分のしたことを英語新聞に読みやすく書くことができる。	１９	
２０	簡単に描かれた図表から、必要な情報を読みとることができる。	２０	

時間があったら、英語の授業について意見や感想を書いてください。

ありがとうございました！！